

12-12right_12-12left.JPG 2018/12/07

12-12right

の分元利共留越、猶右の内半以上貸し金、尤證書二通に分つ、静岡表より雁書六通届く、平■状也、山中より三通届、□より式通、太助より壱通六月の出也

九日酉 雲雨時々□

常司方よりこち一尾贈り越す、叔母より硝□菓子入□貝□□□等少許□贈らる

常司方より桃を贈らる、過日久松並蓮沼より□□し金融筋の儀、常司を以□□り及ぶ

十日戌 陰漸薄晴夕又陰

此久松方へ常司を以て、為及□処、当再考□し度張る□の趣、立帰り申伝へしにより、猶書取を以て□書認め、常司へ渡し同人より為断申し也

十一日亥 陰漸晴

常司方まる□、白瓜等贈らる、常司帰着並中元賀を魚こち二□尾遣す、原の

12-12left

媼より桃二十数へ贈り越す

十二日子 陰乍(ながら)晴

久松より幸便(*1)にて又々金融筋の儀、反□申来る、常司方より□月より当□まで□代勘定書並

利分留越し□書付□差越等、勘□同□し当しらべ越趣、□□し返す、□内より

の利分叔母より留越す、常司より小麦一□贈らる

十三日丑 晴

挙家並叔母隠居久その他、二婢常奴等へ中元賀例の通り、隠居久は中鯛二尾也、生□

□を架す、団子□□□等を□し庭燎(*2)を設あり、義雄帰着し一奴を従す

金米糖一折佃煮一折持来たり、叔母より鯉魚一尾贈らる、中元の賀□也²るべし、□書○

○金米糖(こんぺいとう)を常司方へ扱□す

*0:人名(常司²、親族のだれか)

*1:都合の良い便

*2:庭燎(にわび、祭場で焚く篝火(かがりび))

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読はできません。